
令和２年度 幼稚園等経験者研修Ⅱ

【補助資料】

令和２年２月

- 1 様式１－１（研修対象教員「自己評価表」）作成上の留意点・・・P 1
- 2 様式１－２（校長による評価表）作成上の留意点・・・・・・・P 2
- 3 様式２ （研修計画書）作成上の留意点・・・・・・・P 3
- 4 様式３ （研修報告書）作成上の留意点・・・・・・・P 5
- 5 その他の提出物・・・・・・・P 5



福島県教育センター

1 様式1-1（研修対象教員「自己評価表」）作成上の留意点

- (1) 作成時期と提出先 ※『手引』P12、13、15、16参照

研修前年度の3月初旬（事前の自己評価）と研修年度の2月初旬（事後の自己評価）に作成し、園長へ提出する。

- (2) 採用年度・在職期間等

A 採用年度について

- ・福島県に採用された年度を記載する。

B 在職期間について

- ・在職期間と現任園勤務年数は、研修年度末現在とする。
- ・国立、公立または私立の幼稚園等の教諭（保育教諭を含む。以下同じ。）として在職した期間を通算した期間とする（保育所勤務は除く）。
- ・『研修講座案内』『経験者研修Ⅱの手引』にある在職期間の計算方法に基づいて記載する。
- ・育児休業等で除算される期間がある場合は、その期間を除いて記載する。

C 特記事項について

- ・在職期間中に、育児等の期間が引き続き1年以上あるときは、その期間を記載する。
- ・他県等での在職期間があるときは、その期間を記載する。

- (3) 学習指導等に関する項目

D 平均値とレーダーチャートについて

- ・5段階の評価欄に「○」を入れると平均値が自動計算され、レーダーチャートにも表示されるので、自己目標の設定等に役立てる。

(様式1-1)

研修対象者用

令和 年度 幼稚園等経験者研修Ⅱ
研修対象教員「自己評価表」

氏名			性別	男	女	年齢	
採用年度	昭和・平成	A	在職期間	B	現任園勤務年数	C	年
主たる勤務分掌	特記事項						

幼稚園等の施設実習等には、研修年度末現在とする。
 在職期間等は、国立、公立または私立の幼稚園等の教諭として在職した期間（臨時に任用された期間を除く）を通算した期間とする。（保育所勤務を除く）
 ※特記事項には、国立、公立または私立の幼稚園等の教諭として在職した期間に、育児等の期間が引き続き1年以上あるときの期間を記入する。

1 幼児の指導等に関する項目

1 保育の計画・運営等

幼児の業務等を踏まえて具体的な保育のねらいを立て、一人一人に応じた指導を計画的に実施している。

2 保育のねらいや幼児の発達段階を踏まえ、幼児期にふさわしい生活が展開できるように環境づくりを行っている。

3 幼児の自発的な活動を促し、ねらいを達成できる用具、材料を適切に準備している。

4 他年齢との関係、自然環境、地域の特徴等を生かす保育の場の設定をしている。

5 季節、一日の流れなどの時間的要素も考慮して、保育に生かすように配慮している。

6 幼児の実際の活動に合わせて、的確に指導を促している。

7 保育室や委員会に対する美化に心がけ、安全に配慮している。

8 教師自身を幼児にとっての模範として見え、時と場合に応じた指導に努めている。

1 幼児の指導等に関する項目

1 保育の計画・運営等

幼児の業務・園の活動、幼児の思いや思いに寄り添いながら、主体的・協力的な活動が展開している。

2 保育のねらいや幼児の発達段階、幼児同士の関係を把握し、それに基づいた指導を行っている。

3 幼児一人一人を個別に観察し、必要に応じて指導や支援を行う。

4 保育の判断や思いやりや気持ちを育て、時と場合に応じた指導を行っている。

5 幼児の主体的な活動を促すための教師の役割を把握し、様々な手立てを講じている。

2 その他、園務の遂行に関する項目

2 教職に携わる者としての職務遂行に関する項目

教育者としての自覚と責任を持ち、日々の教育活動を展開している。

3 教職に対する熱意と使命感を持ち、高い倫理観を身に付けている。

4 教育関係法規を理解し、教育公務員としての規範、園の諸方針や内規等を遵守している。

5 幼児教育に求められている今日の課題を理解し、その解決に向けて努力しようとしている。

6 職員相互の立場を尊重し、よりよい人間関係の構築に努めている。

7 研修会等へ積極的に参加し、その成果を活用しようとしている。

幼稚園等経験者研修Ⅱ 研修対象教員による自己目標の設定と達成状況

研修を有意義なものとするため、事前評価に基づいて自己目標を設定するとともに、研修後の事後評価に基づいて自己目標の達成状況について、以下の項目ごとにまとめる。レーダーチャートには、事前評価の各項目平均値を基に、事後評価の各項目平均値を軸で表す。

1 幼児の指導等に関する項目	2 その他、園務の遂行に関する項目
目標（事前）	目標（事前）
達成状況（事後）	達成状況（事後）

1 学習指導等に関する項目

2 平均値のレーダーチャート

事前評価（青） 事後評価（赤）

以下、3ページまで続く

2 様式1-2（園長による評価表）作成上の留意点

(1) 作成時期と提出先 ※『手引』P5、6、15、16参照

研修対象教員から様式1-1（研修対象教員「自己評価表」）を受け取った後、研修前年度の3月（事前の園長評価）と研修年度の2月（事後の園長評価）に作成し、「研修計画書」（あるいは「研修報告書」と共に市町村教育委員会へ3部提出する。提出期限は、事前の園長評価は4月第4週末、事後の園長評価は2月第4週末とする。

なお、園長に異動または退職等があった場合には、前任者の評価表を参考にし、新たに着任した園長が改めて事前の評価を行う。この場合の評価年月日は4月以降になる。

※ 研修対象教員が異動となる場合は、園長は新任地の園長に対し、様式1-1（自己評価表）と様式1-2（園長による評価表）を送付する。新任地の園長は、それを参考にし、改めて事前の評価を行う。この場合の評価年月日は4月以降になる。

(2) 園長による総合所見の評価年月日について

E（事前の園長評価）評価年月日について

- ・園長に異動や退職等がない、あるいは研修対象教員に異動がない場合は、前年度の年月日を記載する。例 令和〇年3月〇日
- ・園長や研修対象教員に異動等がある場合は、4月以降の年月日を記載する。

F（事後の園長評価）評価年月日について

- ・すべての研修が終了した日以降の年月日を記載する。

(3) その他

A～Dについては、前ページ（様式1-1 作成上の留意点）を参照する。

(様式1-2) 令和 年度 幼稚園等経験者研修Ⅱ 「園長による評価表」

※この評価表は複写用紙となる。

園 名	姓 名	性 別	年 齢	職 名
採用年度	令和 年度	A	評価期間	B
主たる勤務先	特記事項	C		

※評価期間とは、研修年度を指す。研修年度とは、研修年度末年度とする。
 ※評価期間は、国立、公立または私立の幼稚園の教諭等として在職した期間（臨時に任用された期間を除く）を適宜した期間とする。
 ※在職期間を除く。
 ※研修年度とは、国立、公立または私立の幼稚園の教諭等として在職した期間に、在職期間が引継ぎ1年以上あるときの期間を記入する。

1 幼児の指導等に関すること ※評価については5～1のマスに○を記載する。

2 指導の計画・運営等	評価	特記事項
幼児の発達等を踏まえて具体的な指導のねらいを立て、一人一人に合わせた指導を計画的に実施している。	5 4 3 2 1	平均値(小数点第1位まで)
① 園々の幼児の発達状況や発達課題に対応した指導計画を作成している。		事後
② 園々の教育課程の具体的な実施計画として、長期的かつ短期的な指導計画を構造的に作成している。		事後
③ 日々の保育の活動を、自らの検討や教員間の話し合いを通じて、反省点を次の指導計画に生かしている。		事後
④ 様々な保育形態に対応した指導計画を作成している。		事後
⑤ 個児全体にわたって、わが園内容を徹底している。		事後

2 環境の整備 ※評価については5～1のマスに○を記載する。

2 環境の整備	評価	特記事項
保育のねらいや幼児の発達課題を捉え、幼児期にふさわしい生活が展開できるような環境づくりを行っている。	5 4 3 2 1	平均値(小数点第1位まで)
① 幼児の自発的な活動を引き出し、わが園を達成できる用具、材料を適切に準備している。		事後
② 他学級との関係、自然環境、地域の特徴等を生かす保育の場の設定をしている。		事後
③ 季節、一日の疲れなどの時間的要素も考慮して捉えて、保育に生かすよう配慮している。		事後
④ 幼児の実際の活動に合わせて、的確に環境を再構成している。		事後
⑤ 保育室や園舎全体に対する美化に心がけ、安全に對しても配慮している。		事後
⑥ 季節や行事などによっての環境として捉え、時と場に応じた環境を整えている。		事後

3 幼児の指導等に関すること ※評価については5～1のマスに○を記載する。

3 指導の展開	評価	特記事項
幼児の興味・関心を捉え、幼児の思いや関心に響きやすいが、自主的・自発的な遊びが促されるよう保育を展開している。	5 4 3 2 1	平均値(小数点第1位まで)
① 園々の幼児の特性や発達課題、幼児同士の関係を把握し、それに基づいた援助を行っている。		事後
② 幼児一人一人を温かい態度で受け止め、幼児の緊張や不安をうまく解消し、安心して活動できる状況づくりに努めている。		事後
③ 積極的な発言や思いやりの気持ちを育てる。時と場に応じた援助を行っている。		事後
④ 幼児の主体的な活動を促すための教師の役割を理解し、様々な手立てを講じている。		事後

以下、3ページまで続く

Ⅲ その他、園長の遂行に関すること ※評価については5～1のマスに○を記載する。

2 教諭に携わる者としての職務遂行に関すること	評価	特記事項
教諭者としての自覚と責任を持ち、日々の教育活動を展開している。	5 4 3 2 1	平均値(小数点第1位まで)
① 教諭に対する信頼や使命感を持ち、高い倫理観を身に付けている。		事後
② 教育課程の展開を理解し、教育公務員としての道徳、倫理の諸力や力等を身に付けている。		事後
③ 幼児教育に求められている今日的な課題を理解し、その解決に向けて努力しようとしている。		事後
④ 職員相互の信頼を醸成し、よい人間関係の構築に努めている。		事後
⑤ 研修会等へ積極的に参加し、その成果を活用しようとしている。		事後

幼稚園等経験者研修Ⅱ 園長による総合所見

園 名	園長氏名	E
研修対象教員氏名	研修対象教員氏名	

【事前の総合所見】 評価年月日 平成 年 月 日

D 事前平均

※1～Ⅲの評価結果を踏まえ、適性に関することや得意分野として伸ばすべき、改善すべき点など、研修計画の作成に当たって反映させたい内容を記載する。

【事後の総合所見】 平成 年 月 日

D 事後平均

※上記の総合評価になった理由を述べるとともに、1～Ⅲの評価結果を踏まえ、研修終了後の成果や今後継続して支援していきたい点などを記載する。

3 様式2（研修計画書）作成上の留意点

※『手引』P5、6、8～12参照

(様式2) 令和 年度 幼稚園等経験者研修Ⅱ 研修計画書

園 名 _____ 園長名 _____ [公印]

研修対象教員	職名	氏名
	性別	備考

1 評価に基づいた研修実施の方針等（評価表との整合性を図り、簡潔に記載する。）

園外研修	A			
園内研修				

2 園外研修

	期 日	会 場	研修名・内容・形態・時間等	日数
指定研修	B	C	D	E
選択研修				

3 園内研修

	期 日	会 場	研修内容・形態・時間等	日数
保育力の向上研修	F		G	
教育関係研修			H	
バイオニア研修			I	
その他	↓	↓		↓

(1) 評価に基づいた研修実施の方針等

A 記入内容について

- ・園長による研修実施の方針を記載する。研修者の目標等を記述する箇所ではないことに注意する。

(2) 園外研修

B 期日について

- ・本研修は4月から翌年2月末までの間に実施することになっているが、2月第4週末が報告書等の提出期限になっているため、その前に研修が終わるように計画する。
- ・教育センターのWebサイトにある研修講座要項や各種研修会等の案内から実施月日・曜日を確認し、正確に記載する。
- ・「社会体験研修」は、受入企業・施設等から週休日を研修日として指定された場合を除き、原則平日に実施する。時間帯も通常の勤務時間に準ずる。実施日が確定していない場合も「未定」とはせず、予定日を記載する。

C 会場について

- ・研修を実施する施設・園名等を記載する。

例)「本園」「〇〇幼稚園」

- ・「社会体験研修」については、域内を原則とし、企業名（社会福祉施設等名）とその所在地を記載する。

例) 五月株式会社（福島市）

※「企業」とは原則として民間企業とする。また、教育関係の職種は避ける。

D 研修名・内容・形態・時間等について

- ・教育センターや教育事務所でされる研修については、教育センターのWebサイトにある研修講座要項から研修名と内容等を確認し、正確に記載する。

例) 共通研修

- ・講話「10年経験の教職員に望むこと」
- ・講義「服務と勤務及び倫理」

E 日数について ※『手引』P8、9参照

- ・園外研修は年間5日以上、園内研修は年間7日以上（合わせて12日以上）となるように計画する。各研修の必要日数については、手引で確認する。

(3) 園内研修

F 実施月日について

- ・4月から翌年2月末までの間で、他の研修日と重複しないように計画し、実施する。
- ・「未定」「5月中旬」「5～7月」などとは記載せず、実際に園長等から指導を受ける予定日を明記する。
- ・園内研修は、すべて課業期間（教育日）に計画する。夏季・冬季休業中には実施できないことに注意する。

G（保育力の向上研修の）研修内容・形態・時間等について

- ・「ア 研修対象教員個々による保育研究」「イ 示範保育者による研究保育」「ウ その他保育力の向上に関する研修」の区分が明確になるように記載する（日数は、アは2日以上、イは1日以上、ウは任意）。
- ・「示範」を「師範」と記載しないように注意する。

H（教育課題研修の）研修内容・形態・時間等について

- ・研修者や所属園の実態・ニーズに応じて設定したテーマを記載する。
※テーマは、『経験者研修Ⅱの手引』（P10）にある一覧を参考にしながら設定する。

I（パイオニア研修の）研修内容・形態・時間等について

- ・『経験者研修Ⅱの手引』（P10）にある視点を参考にしながら特定の課題を設定し、継続的に実施する。計画書提出段階で研究課題が決定している場合は記載する。

例）研究課題「特別な支援を必要とする幼児への指導の在り方」

- 課題設定・研究計画立案
- 文献・理論研究
- 中間まとめと報告
- 最終まとめと報告



学び合うActive Learnerとしての教員へ